

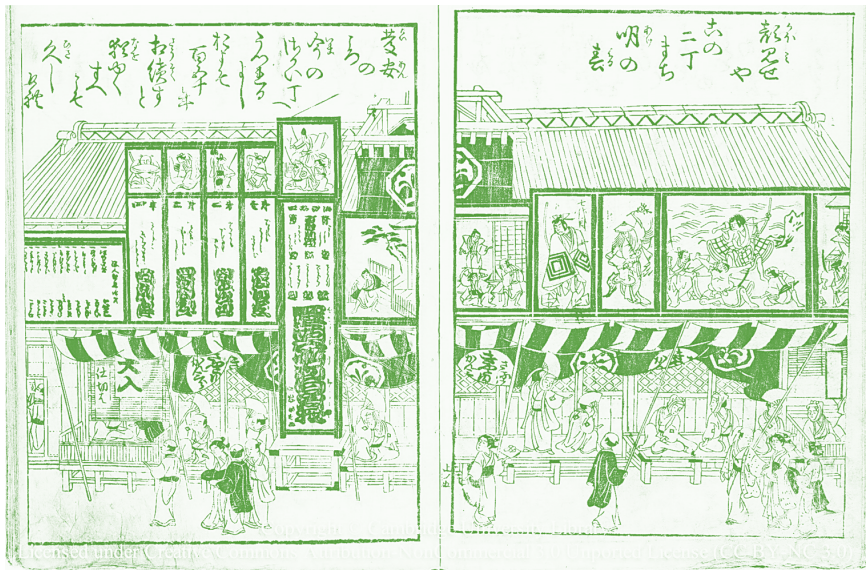


session 2

UNIVERSITY OF CAMBRIDGE DIGITAL LIBRARY

Shibai fūzoku/Ehon Sakaegusa

歌舞伎風俗絵本を読む- 『戲場風俗/絵本栄家種』





FJ.720.2

序
 梅の花見ていふもあはれ思ひ雪月
 花の赤顔と若さの海月
 と言ふと他日と花を成す
 春朝時を遣入す旭
 向ふとあまのつらみりの大入
 子好もいと山屋のこゝろ
 家一とや茶種と類しぬ



Copyright © Cambridge University Library

Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC)

戯場
俗

繪本栄家種
上



Copyright © Cambridge University Library

Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC)

劇場風俗／繪本栄家種

過らるる及らるる事
事の足らざる井の内
の事
ゆきとゆき

莫逆 新泉陳人誌



Copyright © Cambridge University Library

Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC-BY-NC 3.0)

序

桜をみては紅葉を思ひ、雪月

花の外、三ケのつ同じ

と言へど、他は日を窮（きはめ）ず、武江は

霜朔時を違へず、旭に

向ふ三番叟、絶ずとふたりの大入

其繁昌を北尾氏の画に

写し、**三家栄種（さかえぐさ）**と題しぬ

過たるは及ざるにはしかじとやらん

事の足らざるは

とゆるし給へ

莫逆 新泉陳人誌



序
 桜をみては紅葉を思ひ、雪月
 花の外、顔見せ有、三ケのつ同じ
 と言へど、他は日を窮（きはめ）ず、武江は
 霜朔時を違へず、旭に
 向ふ三番叟、絶ずとふたりの大入
 其繁昌を北尾氏の画に
 写し、**三家栄種（さかえぐさ）**と題しぬ
 過たるは及ざるにはしかじとやらん
 事の足らざるは井の内の蛙の
 ふつゝかどゆるし給へ

莫逆 新泉陳人誌



Copyright © Cambridge University Library

Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC-BY-NC 3.0)



顔見世番付（新役者付）：江戸時代の歌舞伎役者は、各劇場と一年ごとに専属契約を結びました（この制度は江戸時代後期には崩れてしまいます）。芝居の新しい年度は十一月から始まります。各劇場において、向こう一年間に出演する役者が**初めて披露される十一月の興行のことを、顔見世興行**と呼びます。そして、その興行の初日に先立って、新しい一座の顔ぶれ（座組）を紹介するために発行される摺り物が顔見世番付です。どの劇場にどんなスター役者が出演するのか、人々は誰よりも早くその情報を得ようと、この顔見世番付を競って求めました。

江戸の場合は「**新役者付**」ともいい、**大判一枚で、上半分には役者だけでなく作者（狂言作者という）や囃子方、振付師等、一座のメンバーの名前が連記され、下半分には主立った役者の姿絵が所狭しと描かれます。**上半分はさらに上下二段に分かれ、上段中央には座元（興行権を持つ人物）の紋、下段中央には猿若（中村）勘三郎・市村羽左衛門・森田勘弥といった座元の名前を中心にして、一座の女形スターの名前が四人、左右に配されます。これは、劇場の正面に飾られる櫓（幕府から興行の許可を得ている証となるもの）と、その下に掲げられる看板の形式を模したものです。顔ぶれによって例外はありますが、概ね上段の右端には一座の女形のトップである立女形の役者、下段の右端には一座のリーダーとなる座頭の役者の名前が記されます。役者の格に合わせて文字の大きさや並べる順番を決めるので、作成にあたっては大変細やかに気を配らなければなりません。時には役者側からクレームがついて、改版するということがありました。

なお、大坂の場合も大判一枚、京の場合は大判を半分にした横長一枚のサイズで、どちらも座本（江戸の座元と表記が異なる）の定紋や役者の名前を記載しますが、江戸のように絵は入っていません。

（東京大学文学部歌舞伎関係資料解説より）

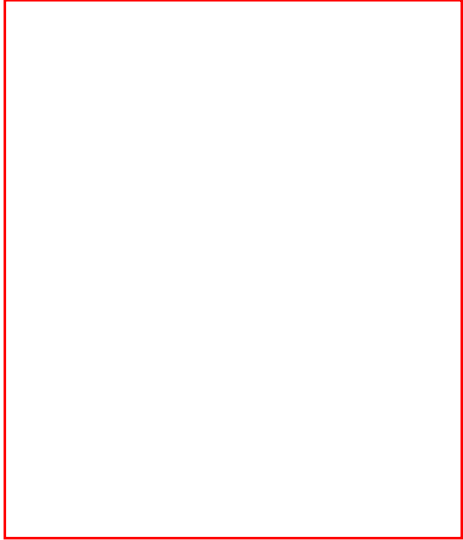


Copyright © Cambridge University Library

Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC 3.0)

NIJL/EAJRS
Kuzushiji
WORKSHOP

役者乗り込み 日本橋



佐野川あぶら見せ

《課題》



Copyright © Cambridge University Library

Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC 3.0)



佐野川あぶら見せ
 ふきや町を過れば
 薫風たもとを
 引くに似たり
 むかしの人の
 袖の香ぞする

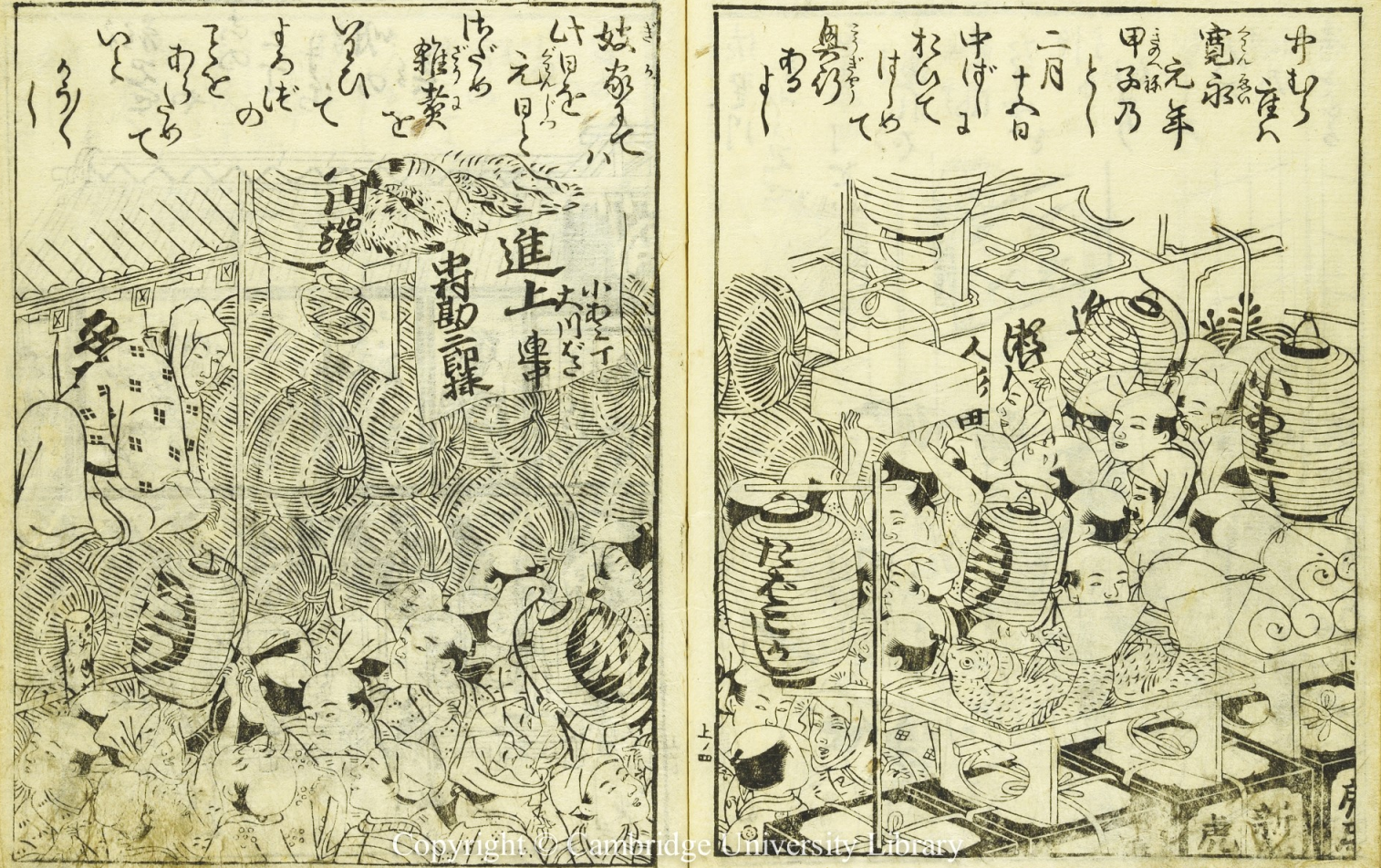


日本橋葛屋町
 …江戸三座のひとつ市村座のある芝居町

NIJL/EAJRS
Kuzushiji
 WORKSHOP

中村座の櫓紋
 (隅切角に銀杏)

御香具所 (お香)



Copyright © Cambridge University Library
 Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC 3.0)

中むら座は寛永元年甲子のとし

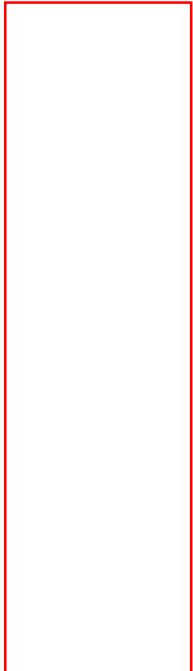
二月十五日

中ばしにおひてはじめて

妓家にては

此日を元日とさだめ

雑煮をいわひて



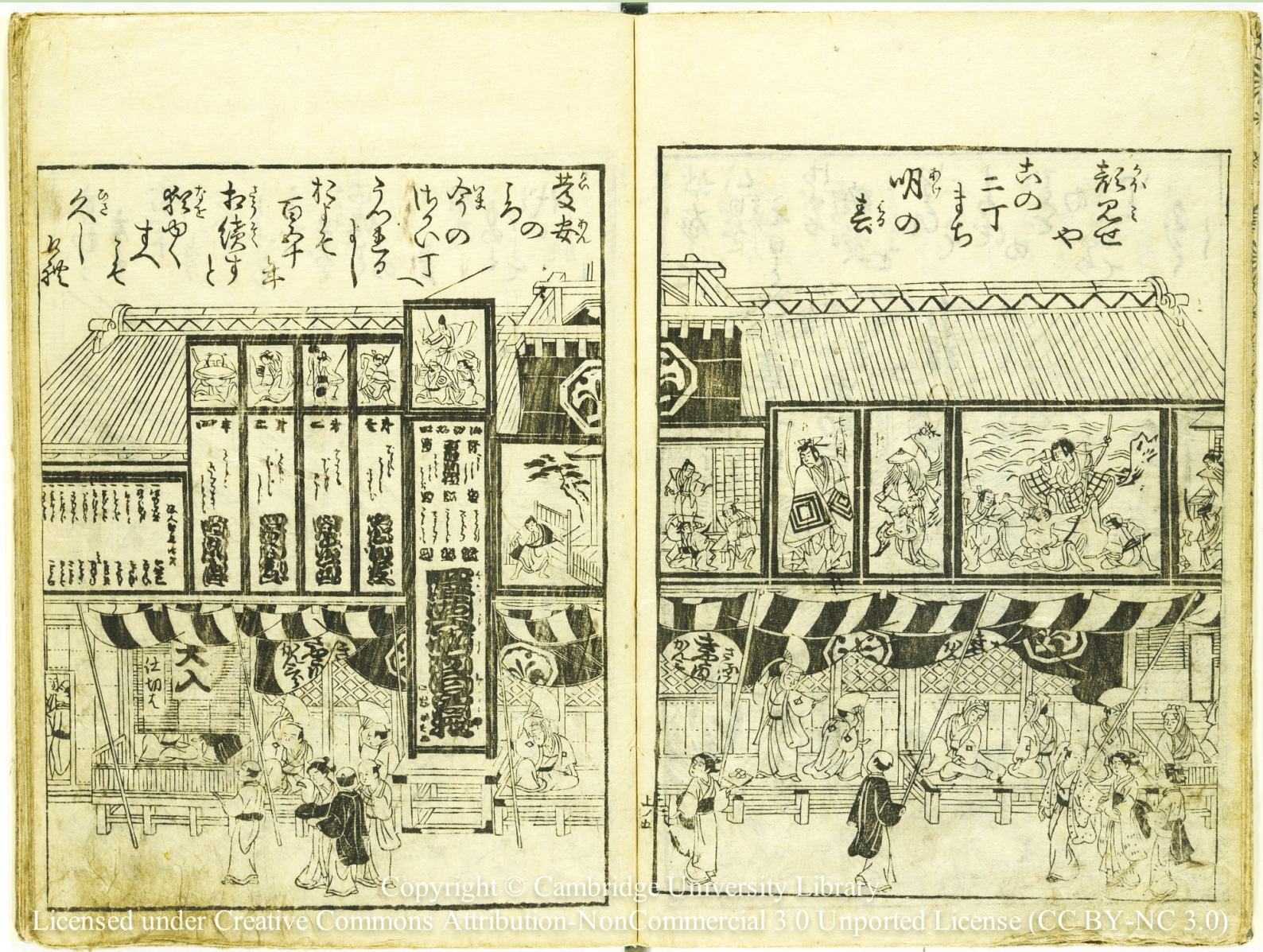


中むら座は寛永元年甲子のとし
 二月十五日
 中ばしにおひてはじめて
 興行あるよし
 妓家にては
 此日を元日とさだめ
 雑煮をいわひて
 よろずのことをあらためて
 いとかうくし



Copyright © Cambridge University Library
 Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC 3.0)

表がかり：家などの、通りに面した部分、表がまえ。



顔見せや

この二丁まち明の春

慶安のころ今のさかい丁へ

およそ百五十年相続すと

猶ゆくすへこそ

Copyright © Cambridge University Library

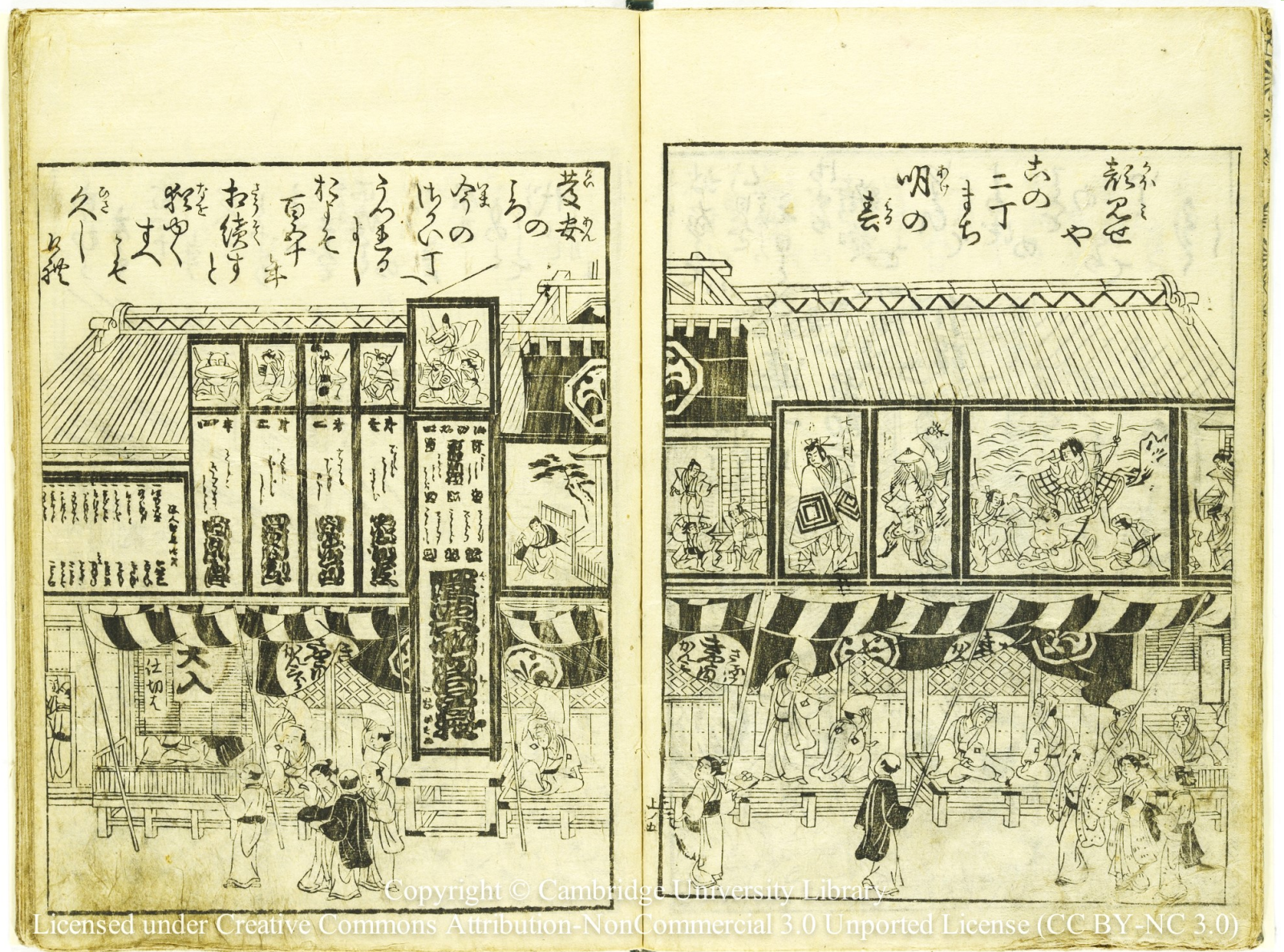
Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC 3.0)



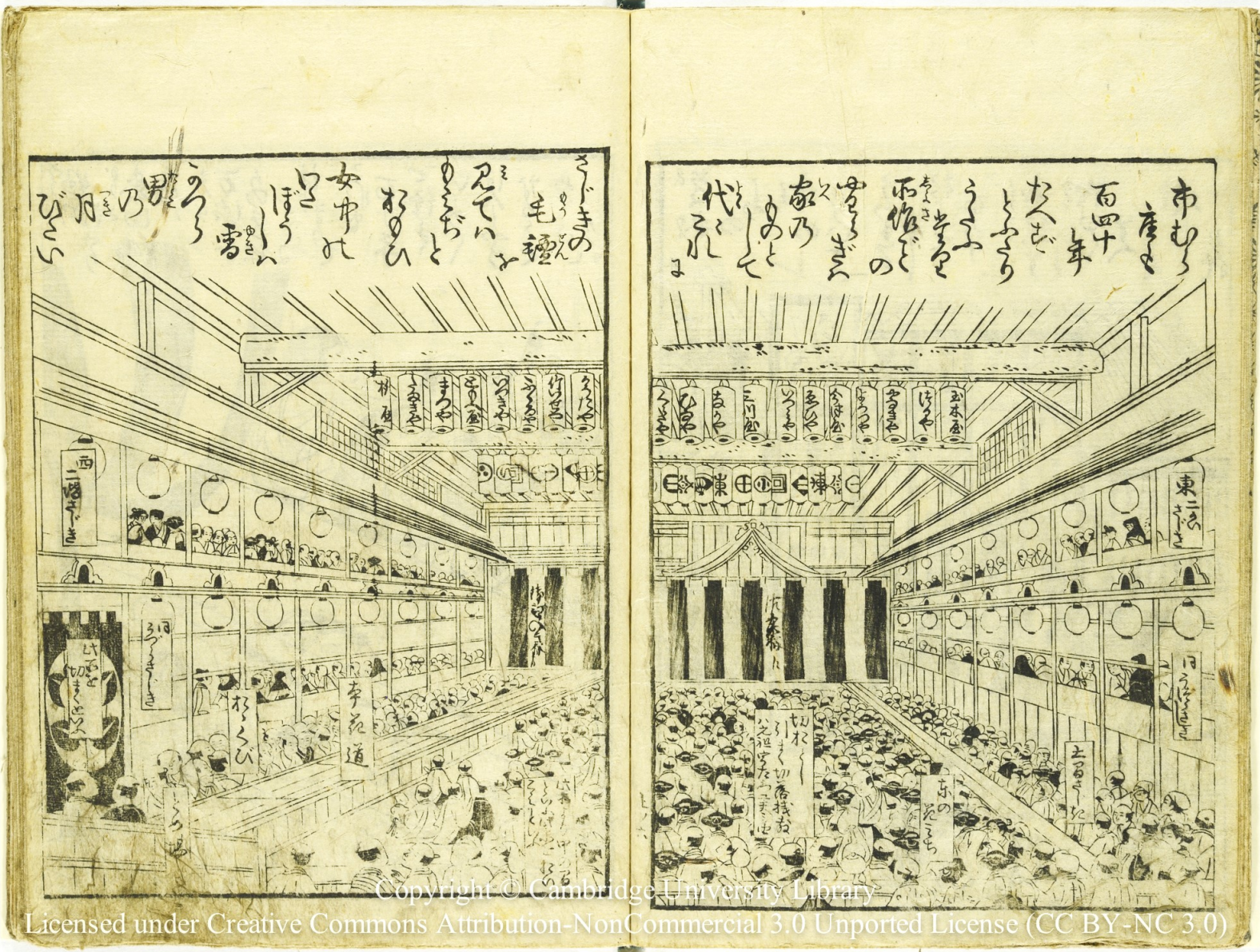


慶安のころ今のさかい丁へ
 うつれるよし
 およそ百五十年相続すと
 猶ゆくすへこそ久しけれ

顔見せや
 この二丁まち明の春



Copyright © Cambridge University Library
 Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC 3.0)



うたふたり

百四十年たへずとふたり

は家のものとして

代々これにさじきの毛氈を見ては
もみぢとおもひ女中のわたぼうしは
雪かつら男の月びたい

東一かいさじき／同うづらさじき／土間さじき／東の花みち／切おとし
引まく切落棧敷は元祖うた工門工夫之由／此所より中の間といふ此の末
をおいこみといふ／本花道／おくび／西二階さじき／同うづらさじき
／此所を切まくといふ



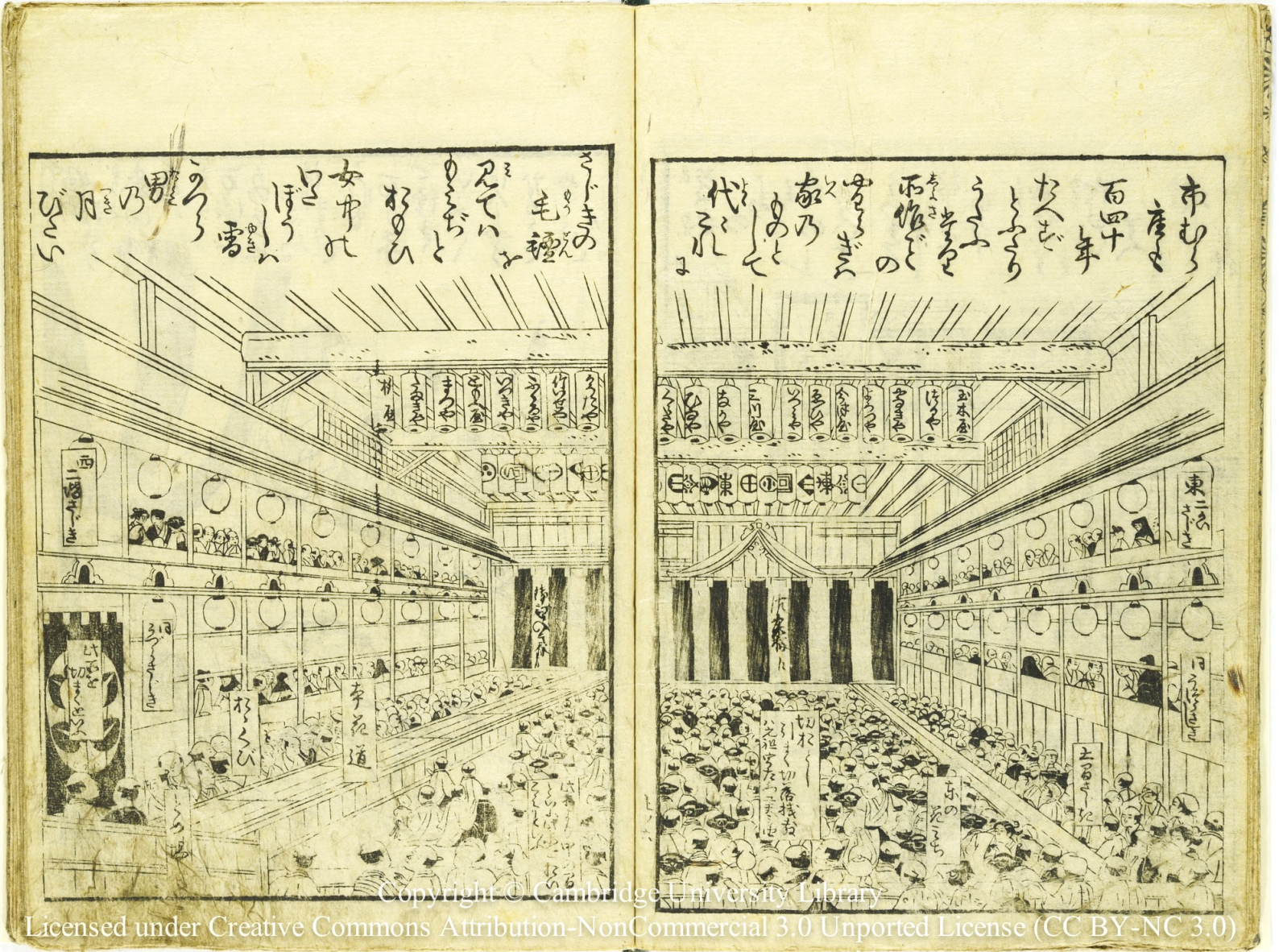
Copyright © Cambridge University Library

Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC 3.0)



市むら座も 百四十年たへずとふたり
 うたふたり
 所作ごとの やわらぎは 家のものとして
 代々これに さじきの毛氈を見ては
 もみぢとおもひ 女中のわたぼうしは
 雪かつら 男の月びたい

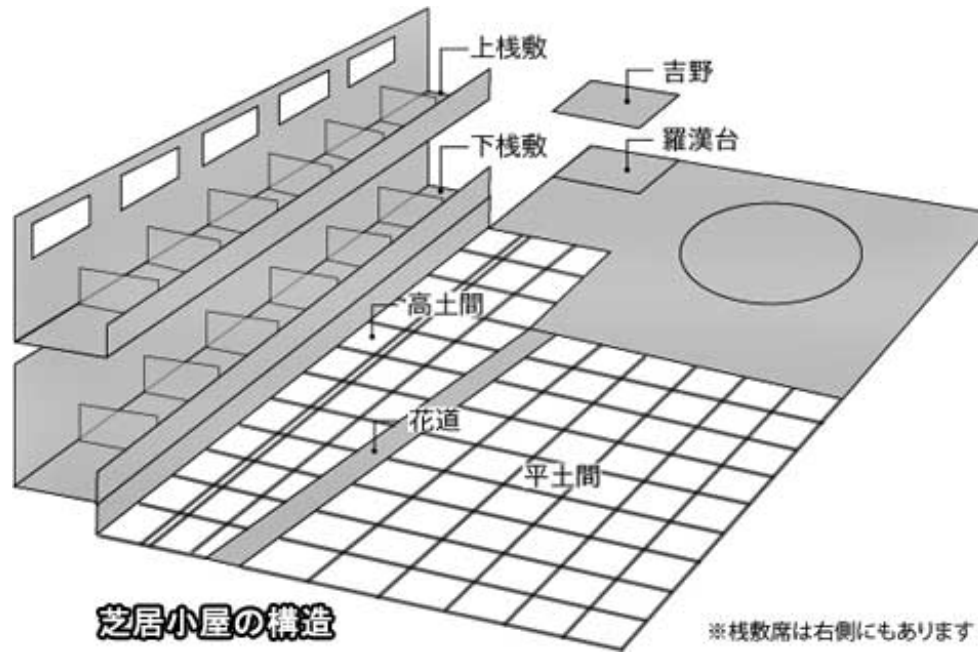
東一かいさじき／同うづらさじき／土間さじき／東の花みち／切おとし
 引まく切落棧敷は元祖うたエ門工夫之由／此所より中の間といふ此の末
 をおいこみといふ／本花道／おくくび／西二階さじき／同うづらさじき
 ／此所を切まくといふ



Copyright © Cambridge University Library
 Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC 3.0)

NIJL/EAJRS
Kuzushiji
 WORKSHOP

綿帽子…高い鬘（まげ）を結った髪の上に、頭を覆う形で被る、袋状の被り物



市村座場内図
 演目:京鹿子娘道成寺

<http://www.eonet.ne.jp/~shoyu/mametisiki/reference-16c.html>



卯の
 女が
 芝居の
 大入
 万治二
 年
 は
 じ
 ま
 り
 て



卯の
 女が
 芝居の
 大入
 万治二
 年
 は
 じ
 ま
 り
 て

妙を

森田座は万治二
 これも百十年を経ていよ／＼
 はんじやうなるこそめでたけれ
 華のかたちの女がた 四季ともに
 ながめにあかぬ芝居の大入

Copyright © Cambridge University Library
 Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC 3.0)

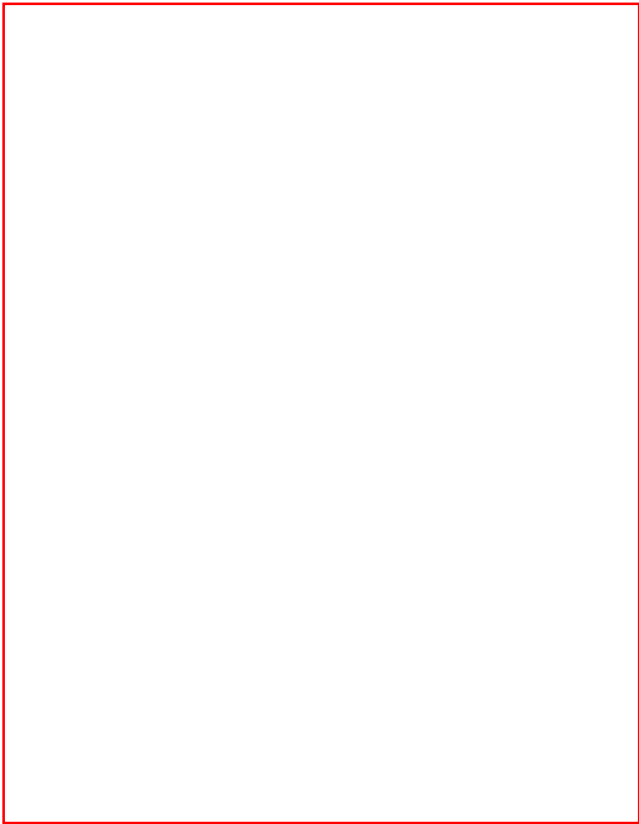


森田座は万治二かのえねにはじまりて
 これも百十年を経ていよ／＼
 はんじやうなるこそめでたけれ
 華のかたちの女がた 四季ともに
 ながめにあかぬ芝居の大入

妙を得たり



Copyright © Cambridge University Library
 Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC 3.0)





かうらいせんべい
 「かうら」いせんべい
 「御膳」ます包

大きなをかうらいせんべいと
 いふはむかしよりの名なり
 今このみせに此名あるもさいわいなり

高麗せんべい見世





高麗煎餅店先

2代目市川高麗蔵が、鬮員の女客に頼まれ扇に揮毫している
絵

高麗蔵（こまぞう） 本来は高麗屋の門人が名乗っていた名跡だが、二代目高麗蔵が宗家を継いで四代目松本幸四郎となったことから、これが松本幸四郎に先立って襲名される名跡となった。

紋…四つ花菱 三舛

松本幸四郎はそもそも、市川宗家で市川團十郎の跡継ぎが絶えたときには養子に入ってこれを継ぐという、控えとしての性格を持ちあわせた名跡だった。

<https://bunka.nii.ac.jp/heritage/s/detail/410827>

NIJL/EAJRS
Kuzushiji
WORKSHOP





助六廓の花見時

白ひけば 雷かと驚、粉をふるへば
 夫婦いさかひとうたがふは、片田舎
 の手打そば
 繁昌の白の、をとも





白ひけば 雷かと驚、粉をふるへば
 夫婦いさかひとうたがふは、片田舎
 の手打そば 名にしほふ、ふく山が
 繁昌の白の、をとも所がらとて耳に
 とまらず



助六廓の花見時

福山は市村座の東隣にあったそば屋。芝居小屋や芝居茶屋への出前が多かった。



市村座の櫓紋（丸に橋）

Copyright © Cambridge University Library

Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC 3.0)



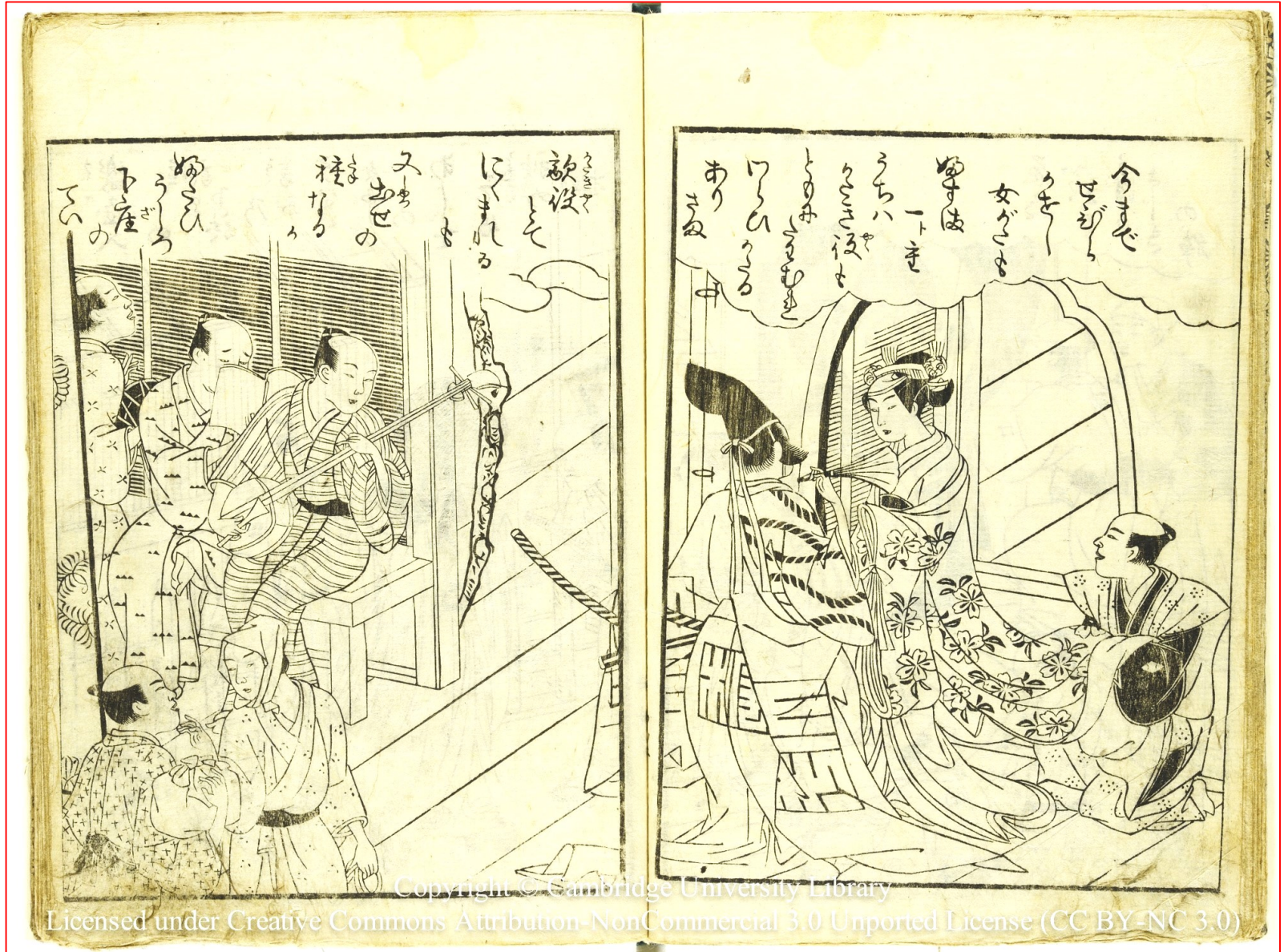
中巻



花道、をくみ（大首）、うづらさじきの
 体
 れき／＼のたて物も、顔見せに花みちより
 本ぶたひへ直るまでは、年／＼のことなれ
 ども気が落つかぬとのはなし
 ことさらはじめての京くだりなどはさらな
 り



立者…歌舞伎の一座の中で中心となる幹部役者



今まで

女がたも

は、かたき役も

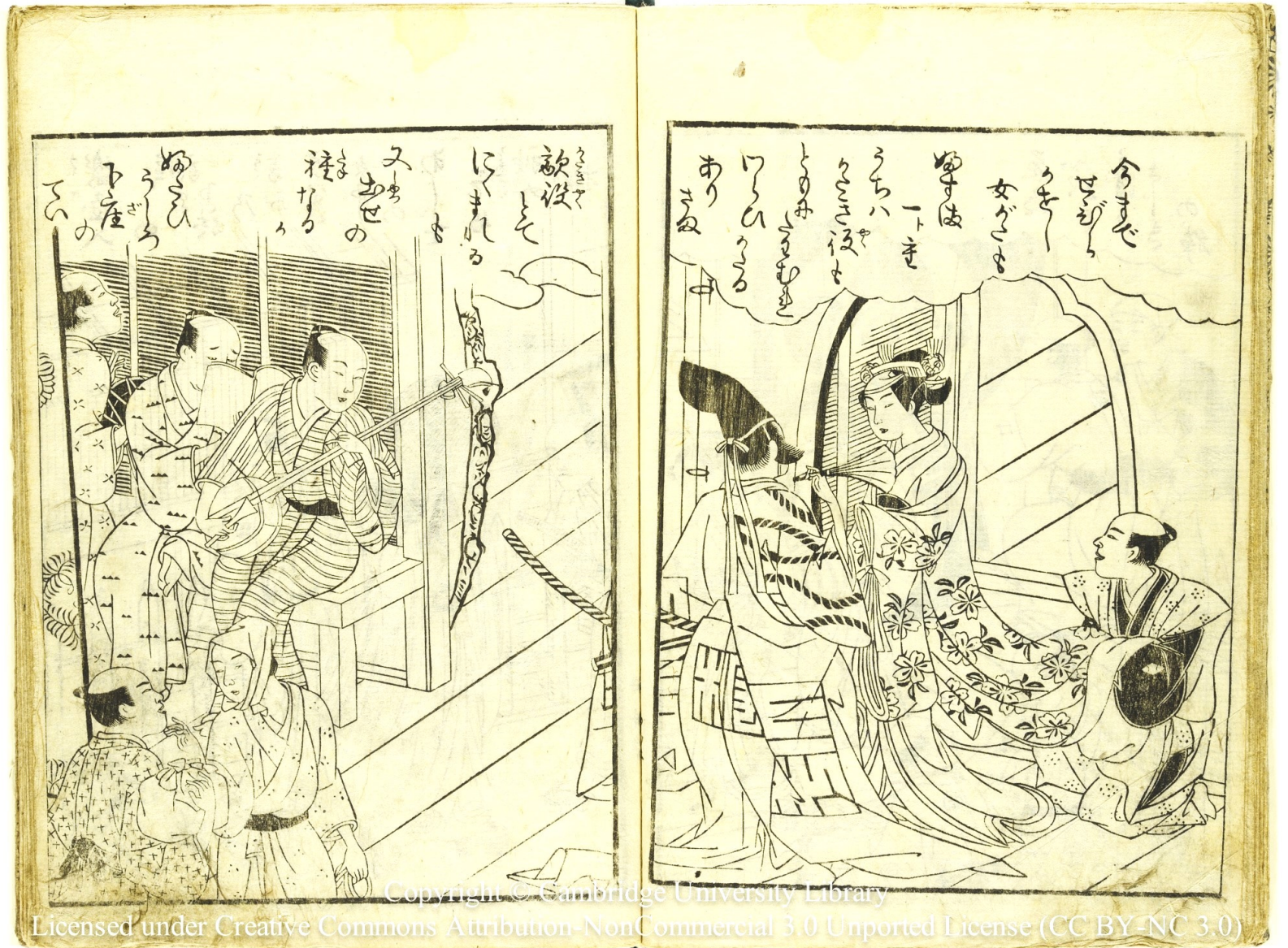
ともにたわむれ、わらひかたるありさま
敵役とてにくまれるも、又出世の種なるか

ぶたひうしろ下座のてい

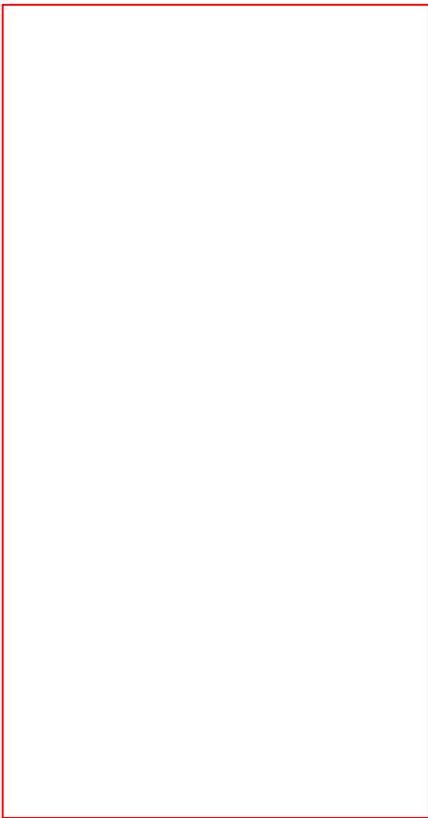




今までせびらかせし女がたも
 ふすま一ト重うちは、かたき役も
 ともにたわむれ、わらひかたるありさま
 敵役とてにくまれるも、又出世の種なるか
 ぶたひうしろ下座のてい



せびらかす…無理な要求をする。せが
 む。いじめる。



Copyright © Cambridge University Library
 Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC 3.0)

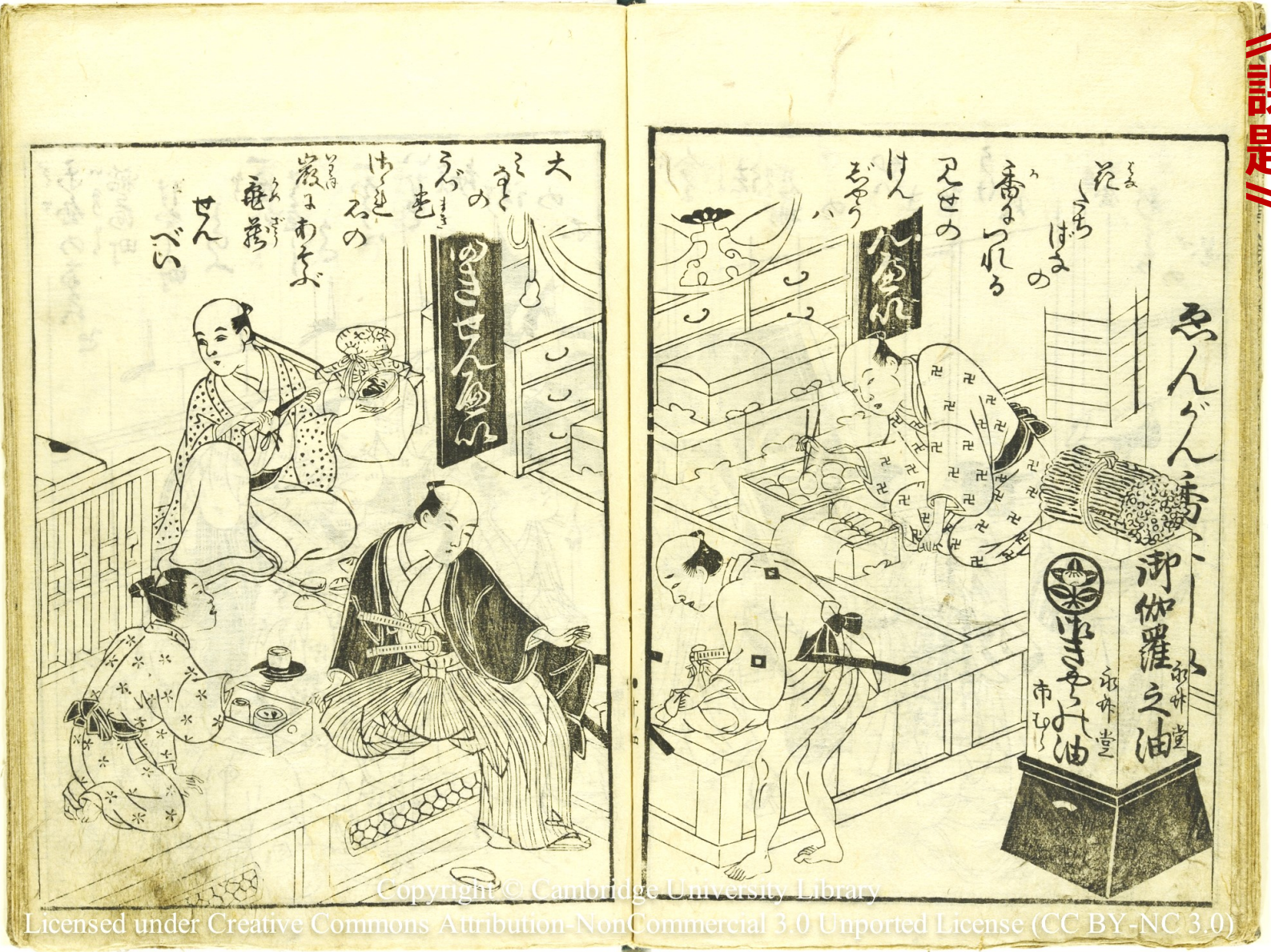
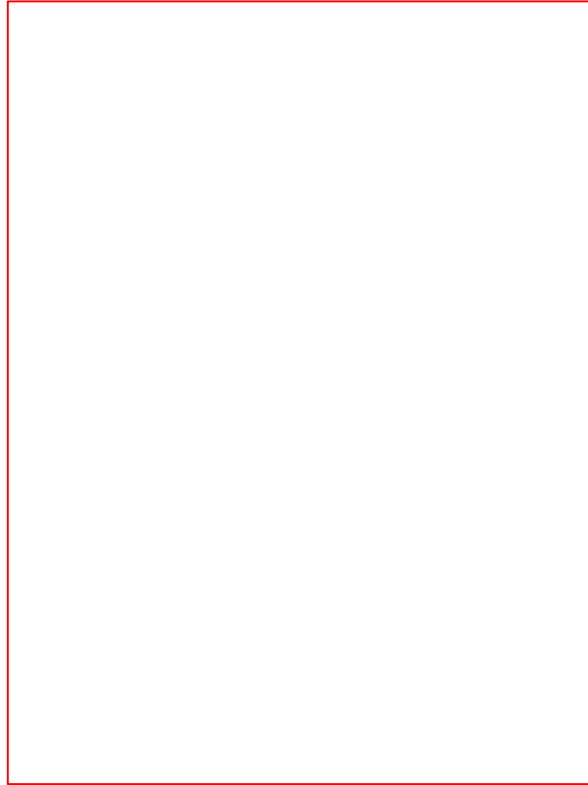


楽屋新みちの図

楽屋入の駒下駄の音に
うはき女中のあしをとぐめ
袖の振合に諸見物のひいきをう
けぬ



Copyright © Cambridge University Library
Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC 3.0)



Copyright © Cambridge University Library

Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC 3.0)



花たちばなの香につれる
 見せのはんじやうは
 大みなとのうづ巻
 さゞれ石の巖にあそぶ
 亀蔵せんべい

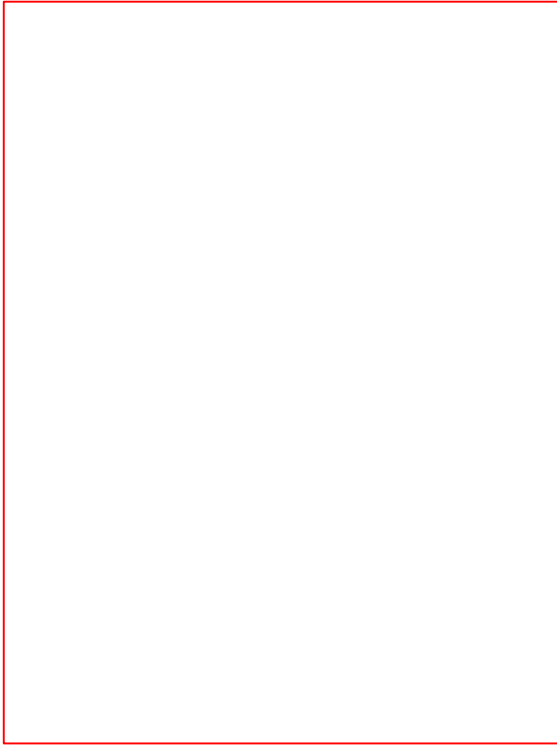
市川亀蔵

『明和誌』（「鼠璞十種」中）青山白峰著
 「むら松町団十郎煎餅、吹屋町かめ蔵せんべいと云ふあり。何れも味美にして、形まるく、さしわたし七寸ぐらゐ。団十郎せんべいは、三枳に裏には舞づるをつけ、かめ蔵せんべいは、橘とうづまきを附、価一枚十文づゝなり。亀蔵せんべいは、箱せんべいといふ。照降町親父橋の角にあり。」



Copyright © Cambridge University Library

Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC 3.0)



課題





楽屋の両がはを
 稲荷町・はやし町といふ
 一方ははやしかた
 一方はいなり勧請の所
 幾顔見世もかはらぬ
 重年のいなりまちならんか



Copyright © Cambridge University Library

Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC 3.0)



《課題》

夜の目もねずに来るは、あくる日の
栄花の夢を見たためか

中村・市村

しばらくぜ



Copyright © Cambridge University Library
Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC 3.0)



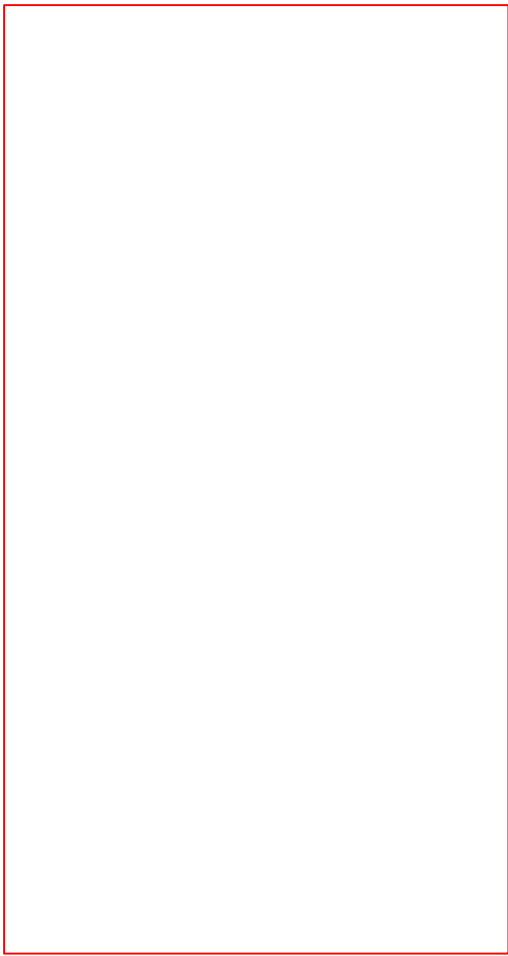
中村・市村 切落札御世話仕候
 しばらくや

顔みせを見んと、宵からしたくして
 夜の目もねずに来るは、あくる日の
 栄花の夢を見んためか



Copyright © Cambridge University Library
 Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC 3.0)

座名の焼き印を押した切落札
 (一種の切符)



課題

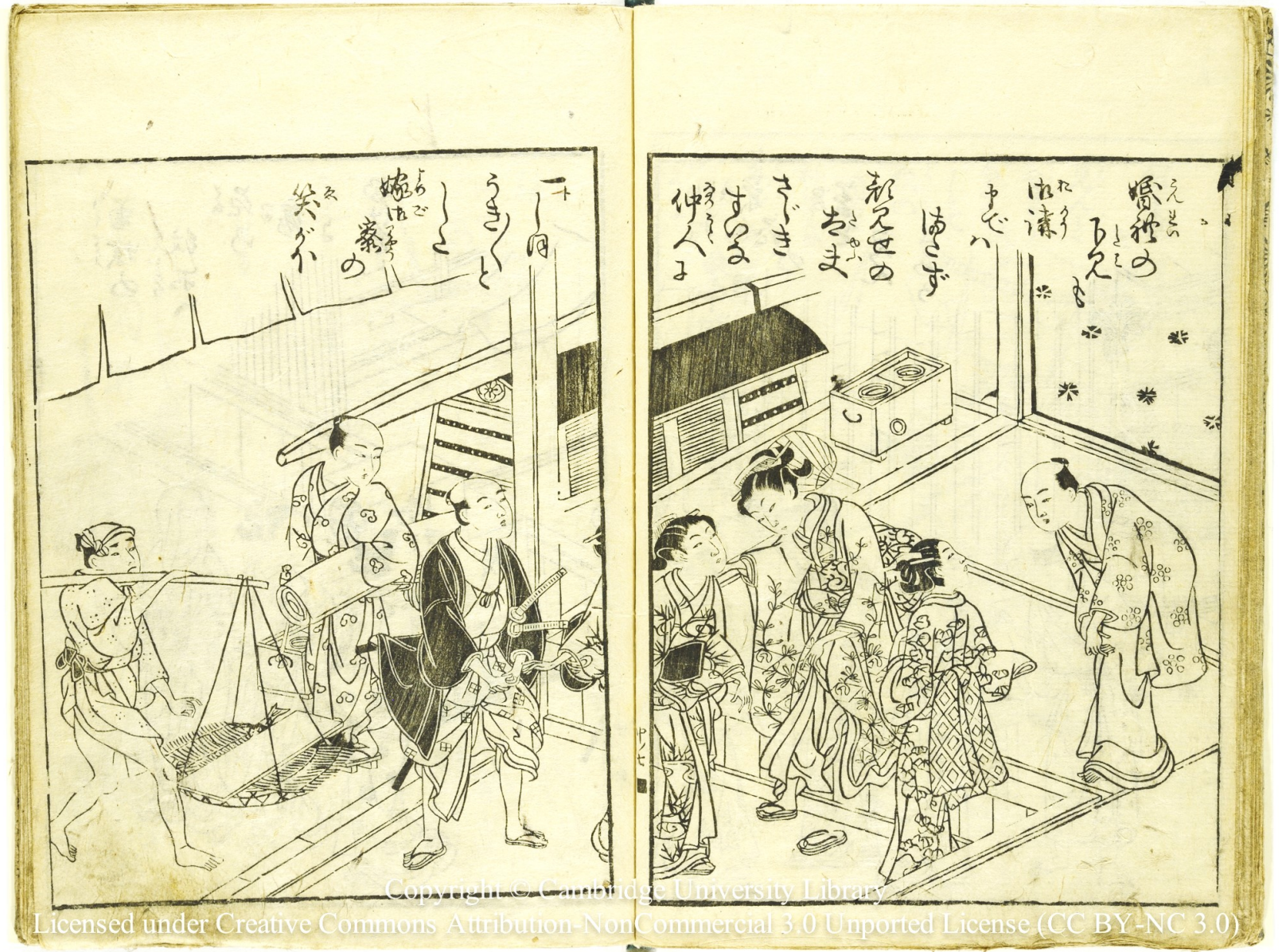


Copyright © Cambridge University Library

Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC 3.0)



婚礼の下見も御講まではまたず
 顔見せの太夫
 さじき すいな仲人に一トしほ
 うき／＼とした嫁御寮の笑がほ



御講（おこう）寺院での読経、説経の集まり

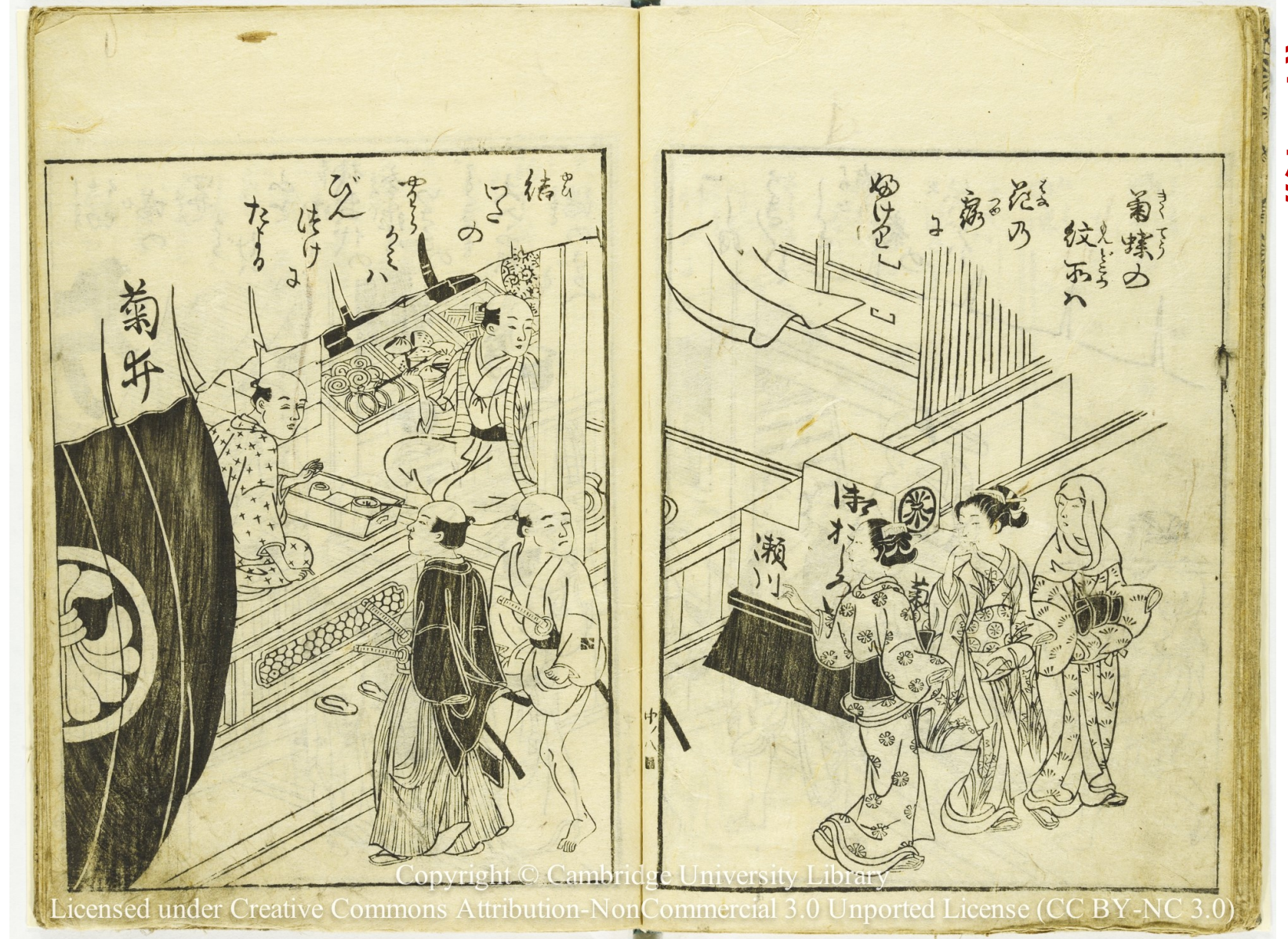
Copyright © Cambridge University Library
 Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC 3.0)



菊井

びんつけにたよる

菊蝶の紋所は
花の露に

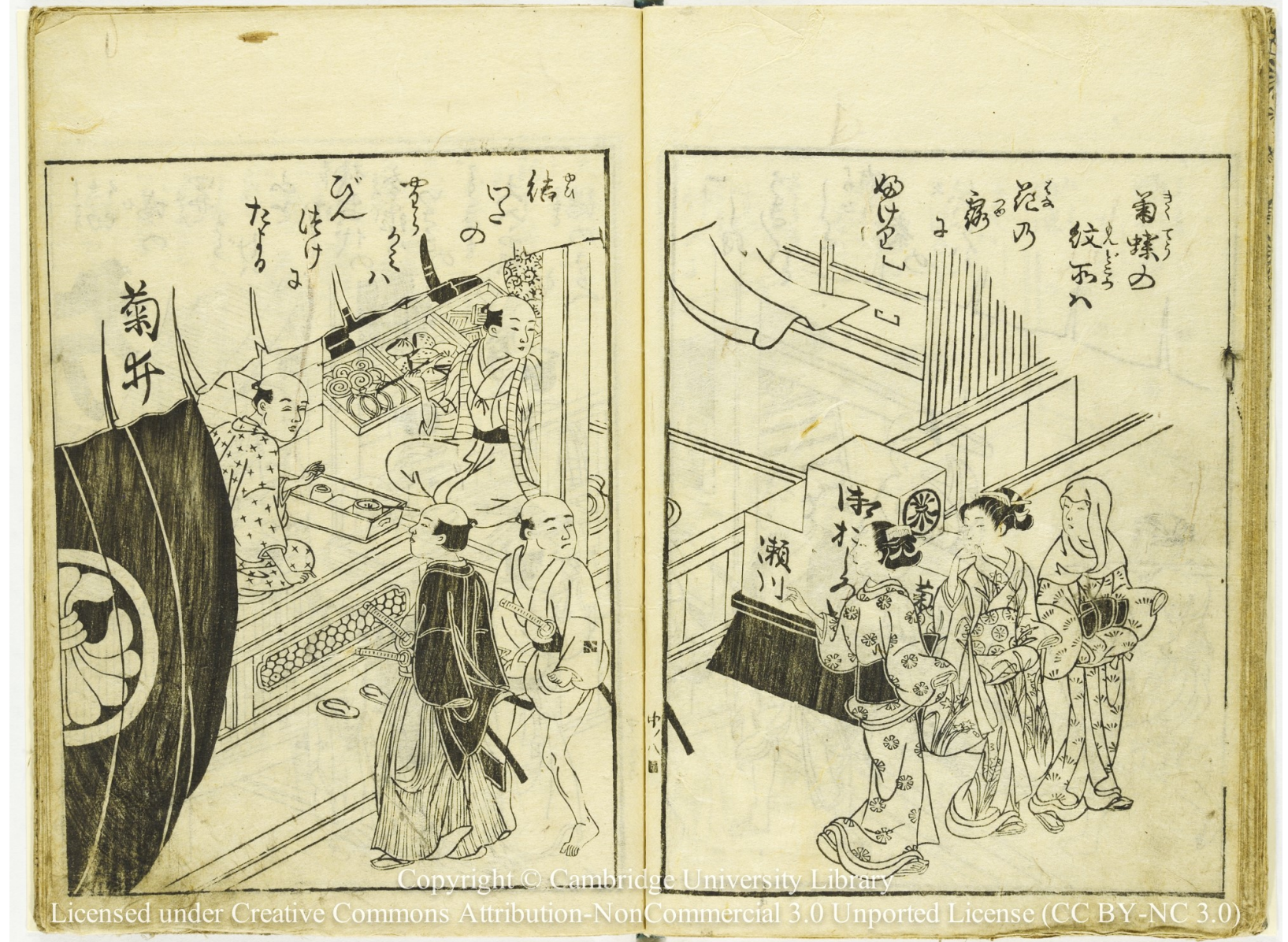




菊井

菊蝶の紋所は
 花の露にふけり
 結わたのやわらかみは
 びんつけにたよる

丸に結綿・瀬川菊之丞（路考）
 の定紋
 菊蝶の紋・替紋〔本書参照〕



Copyright © Cambridge University Library

Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC 3.0)



仕切り場の

は山をなし

の金銀は

いさご(砂)のごときも
大入ふねの湊のさかへ

大振袖に駒下駄

左を

左にあり

目を
見るに障なし

Copyright © Cambridge University Library

Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC 3.0)

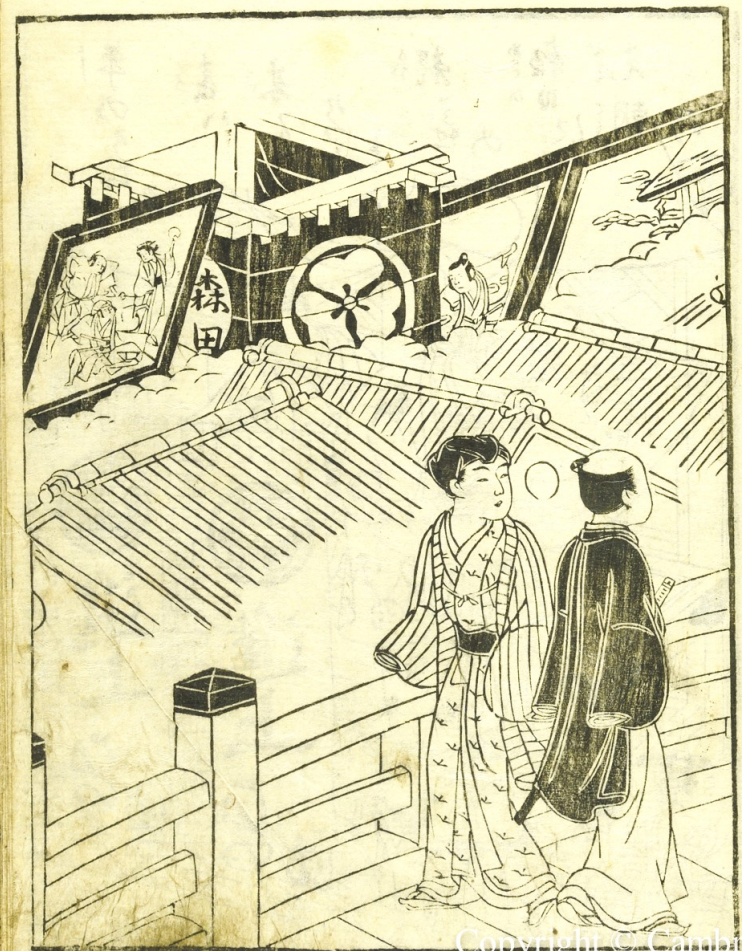
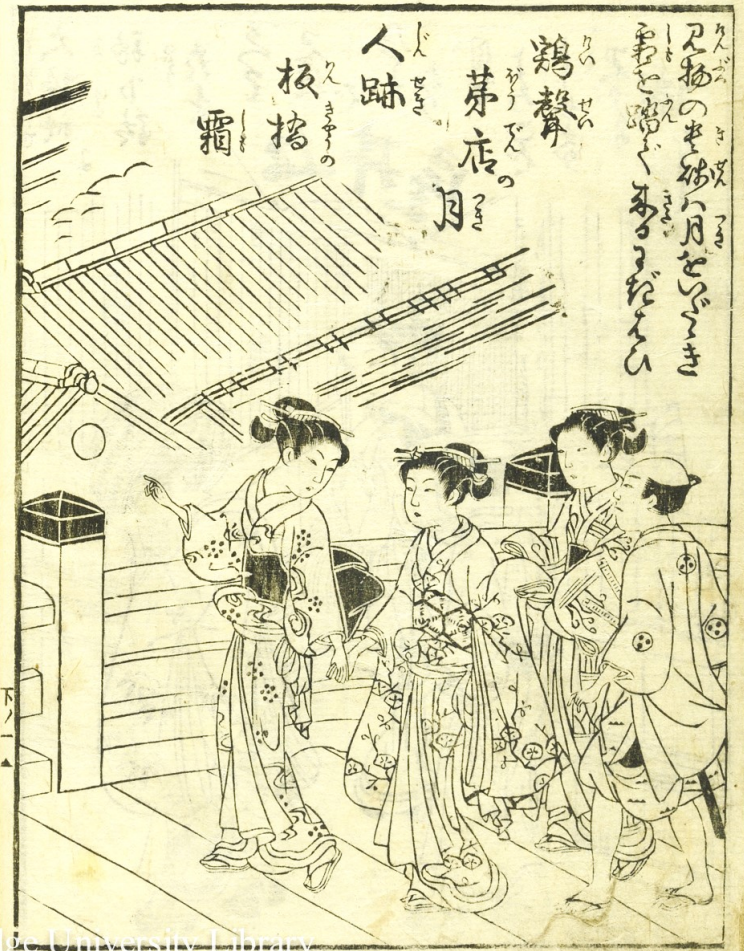




仕切り場の
四貫からげは山をなし
棧敷代の金銀は
いさご(砂)のごときも
大入ふねの湊のさかへ

大振袖に駒下駄
左をかへり見れば
左にあり
目をよるこばしめて
見るに障なし





見物の 、月をいただゝき
 霜を踏で、来る

鶏聲 茅店月
 人跡 板橋霜

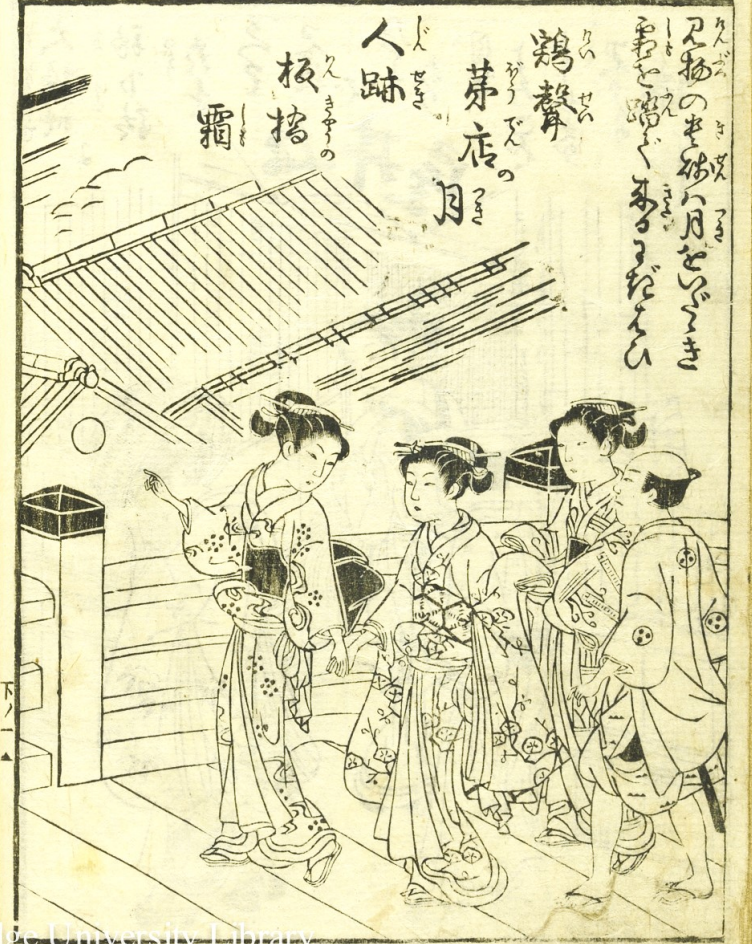
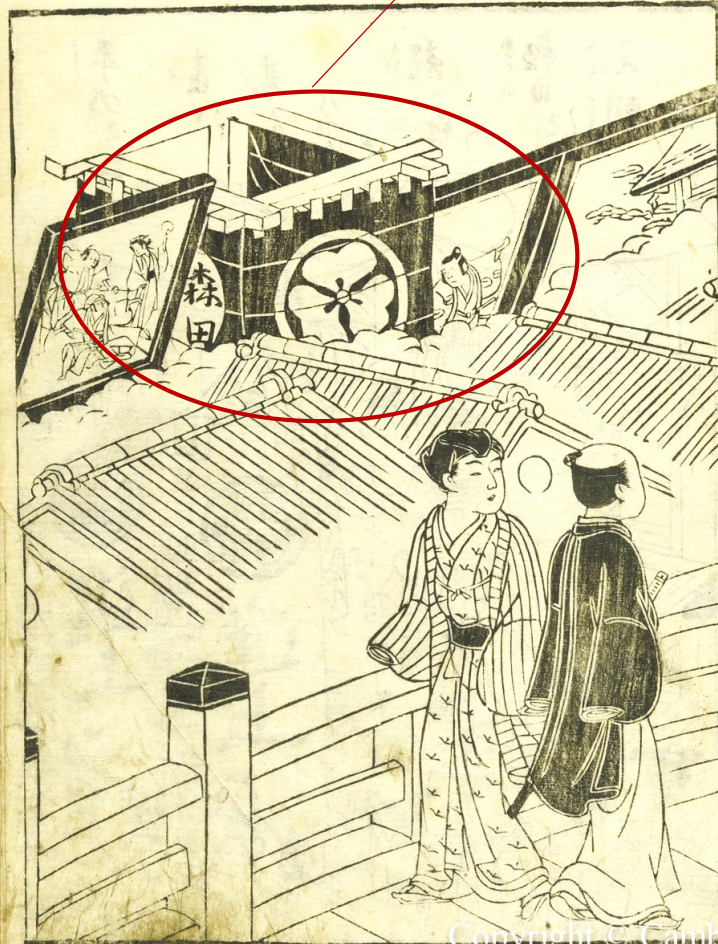
鶏声 (けいせい) 茅店 (ぼうてん) 月、人跡 (じんせき) 板橋 (ばんきょう) (ばんきょうの) 霜
 ※禅語…まだ夜も明けきららず、月も又残つて居るに、早や橋を通つ人の跡があるの意
 茅店…かやぶき屋根の旅館

Copyright © Cambridge University Library
 Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC 3.0)





森田座櫓紋

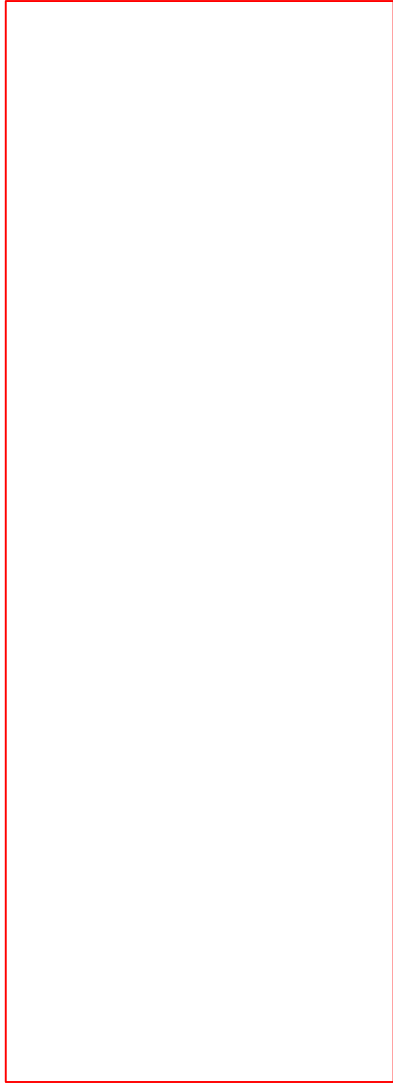


見物の貴賤は、月をいたただき
霜を踏で、来るにぎはひ

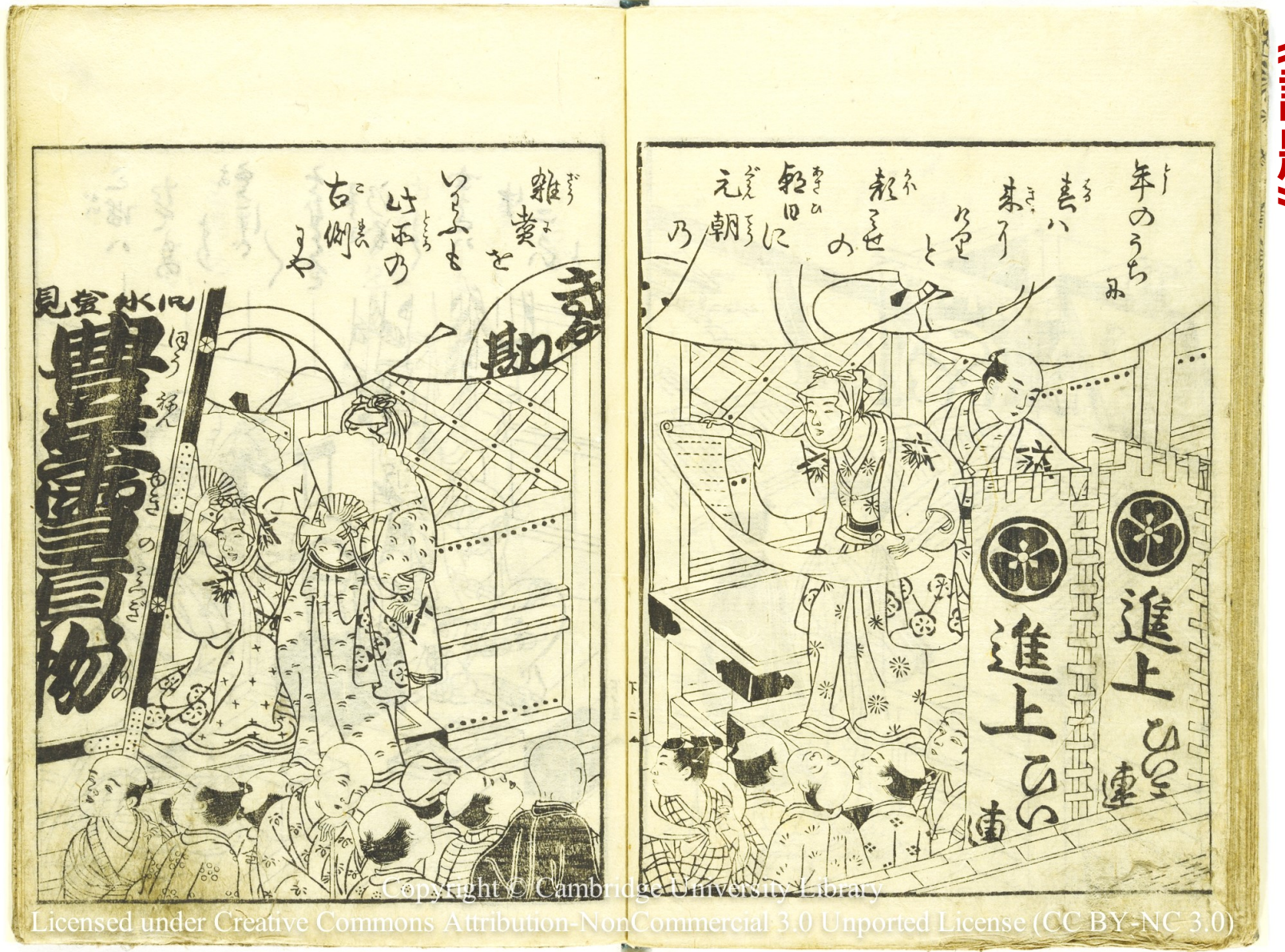
鶏聲 茅店月
人跡 板橋霜

鶏聲 (けいせい) 茅店 (ぼうてん)
の月、人跡 (じんせき) 板橋
(ばんきょうの) 霜
※禅語・まだ夜も明けきららず、月
も又残つて居るに、早や橋を通つ
人の跡があるの意
茅店：かやぶき屋根の旅館

Copyright © Cambridge University Library
Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC 3.0)



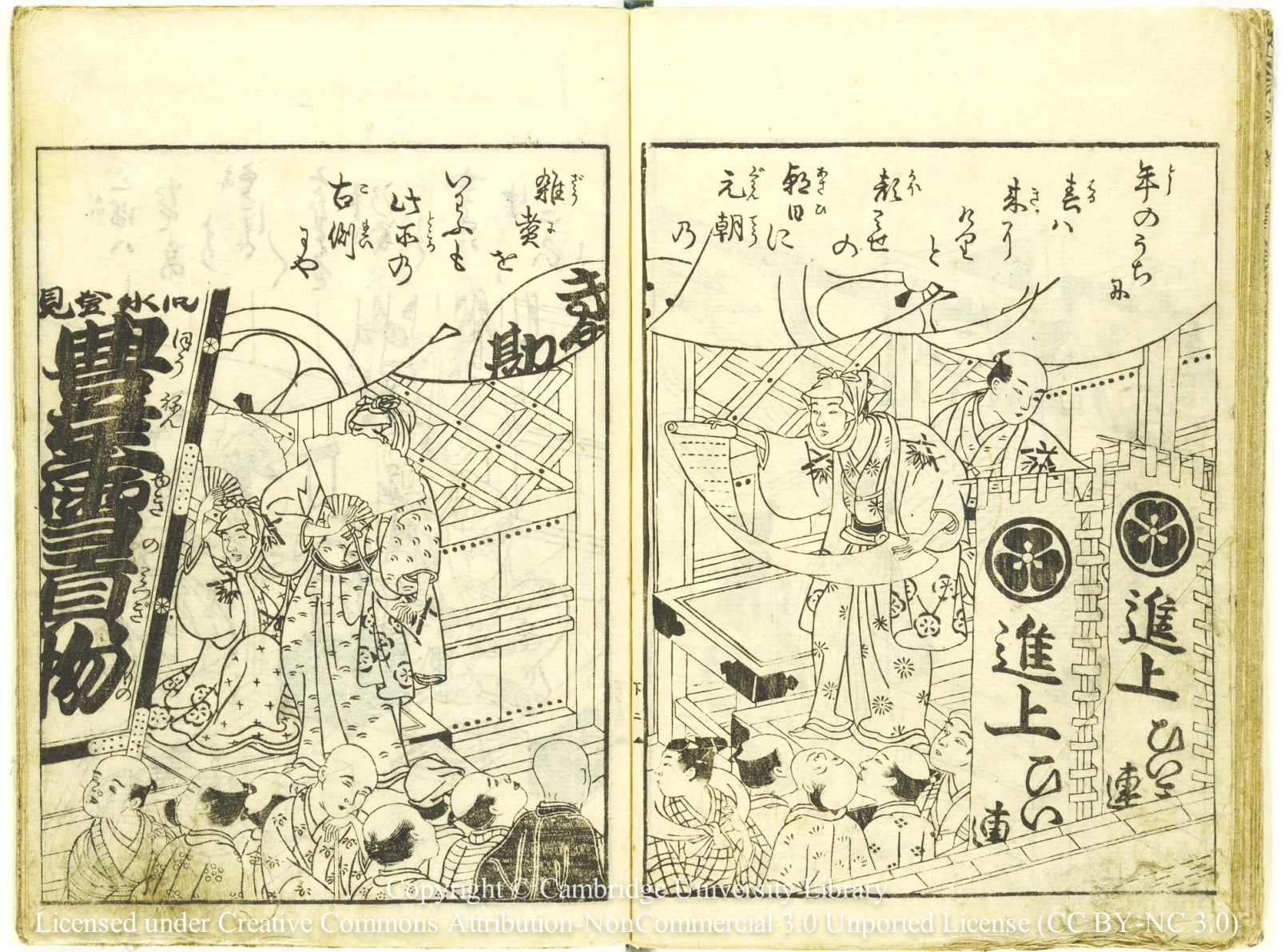
《課題》



Copyright © Cambridge University Library
Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC 3.0)



年のうちに春は来にけりと、
 顔みせの朝日に、元朝の雑煮をいわ
 ふも、此所の古例にや



顔見世狂言…11月



三階のてい

三階はたてもものより

そなはり行義よく、女がたは中二かいと

Copyright © Cambridge University Library

Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC 3.0)





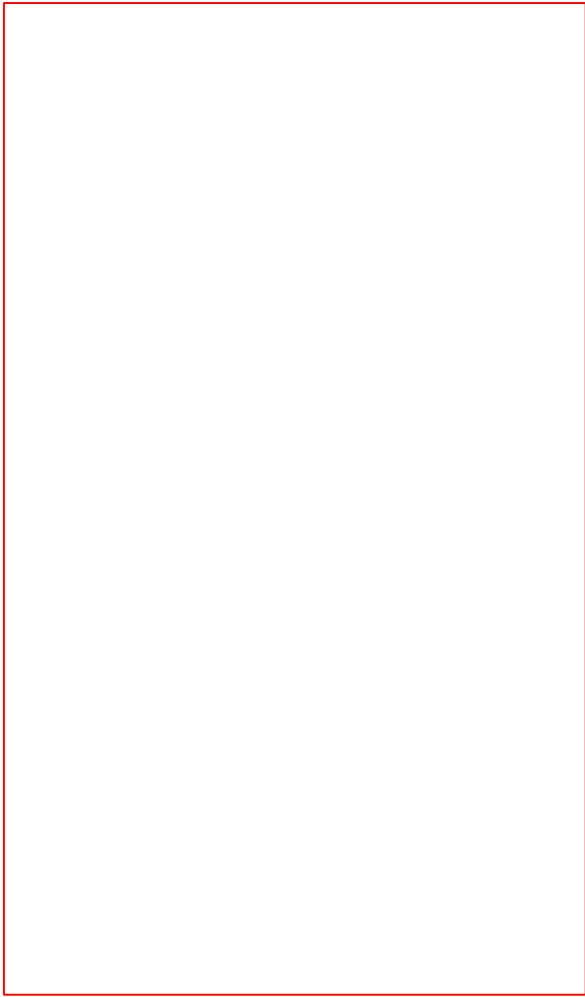
三階はたてもものより其ほどく
 そなはり行義よく、女がたは中二かいと
 かゝるわざにも御法たがはず

三階のてい



Copyright © Cambridge University Library

Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC 3.0)



〔参考〕 絵本舞台扇

著者：勝川春章, 一筆斎文調//画

出版年月日：明和7(1770)刊

<https://doi.org/10.11501/1288380>

Copyright © Cambridge University Library

Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC 3.0)



おとろふるものあれども
 実あれば後は栄へ
 邪あるものはほろぶ
 勸善懲悪のいましめ
 一日の中に人間の一生を見るも
 我おしえにもならんと
 心をつけて見るべし

〔参考〕 絵本舞台扇

著者：勝川春章, 一筆斎文調//画

出版年月日：明和7(1770)刊

<https://dl.ndl.go.jp/pid/1288380/1>

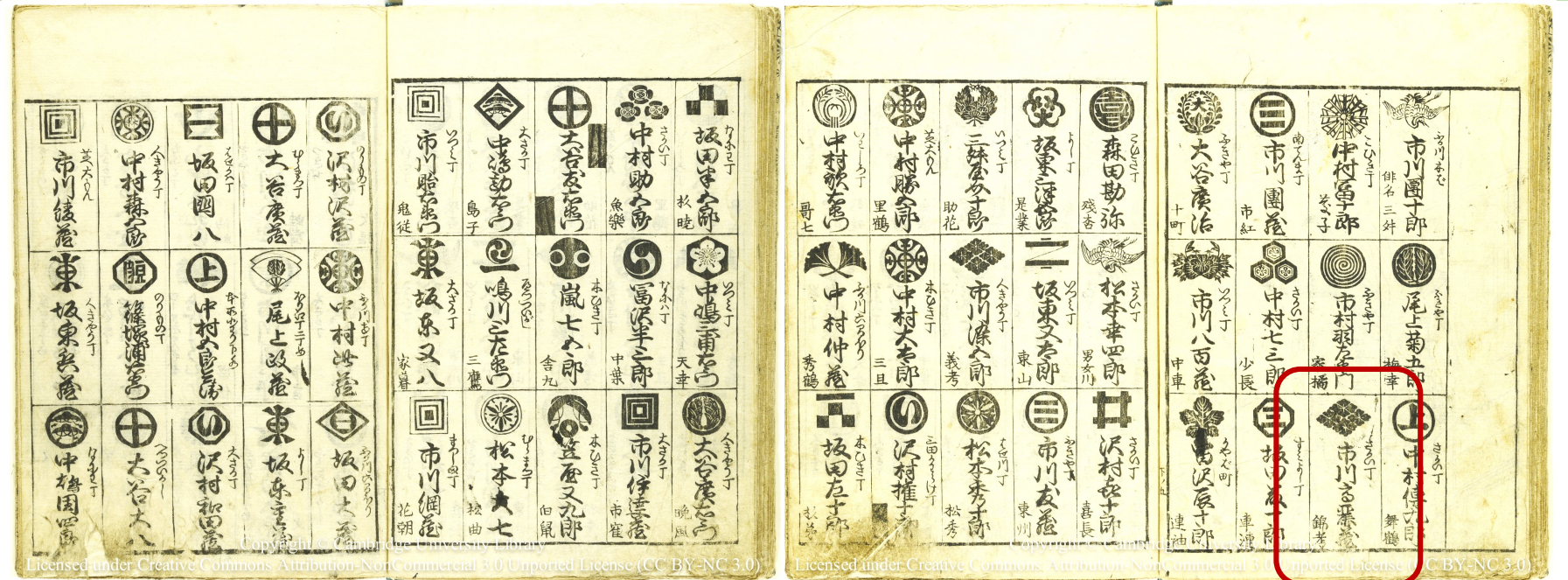
/1



Copyright © Cambridge University Library

Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC 3.0)

NIJL/EAJRS
Kuzushiji
 WORKSHOP



定紋・替紋

<https://www.benricho.org/kamon/Edokabuki/>

古今四場居百人一首

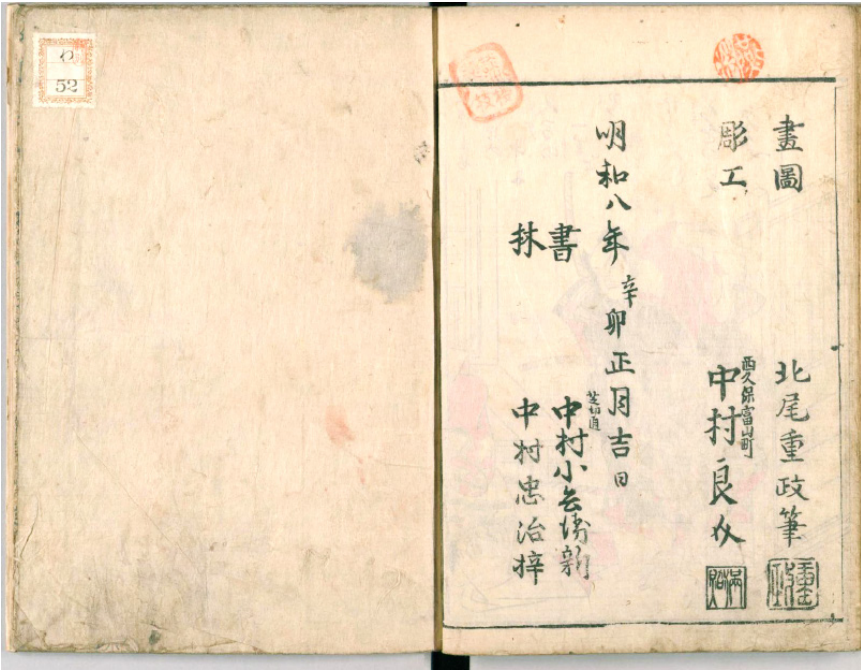
<https://doi.org/10.11501/1188496>

花江都歌舞妓年代記

https://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/html/buniko01/buniko01_01767/index.html



国立国会図書館所蔵本

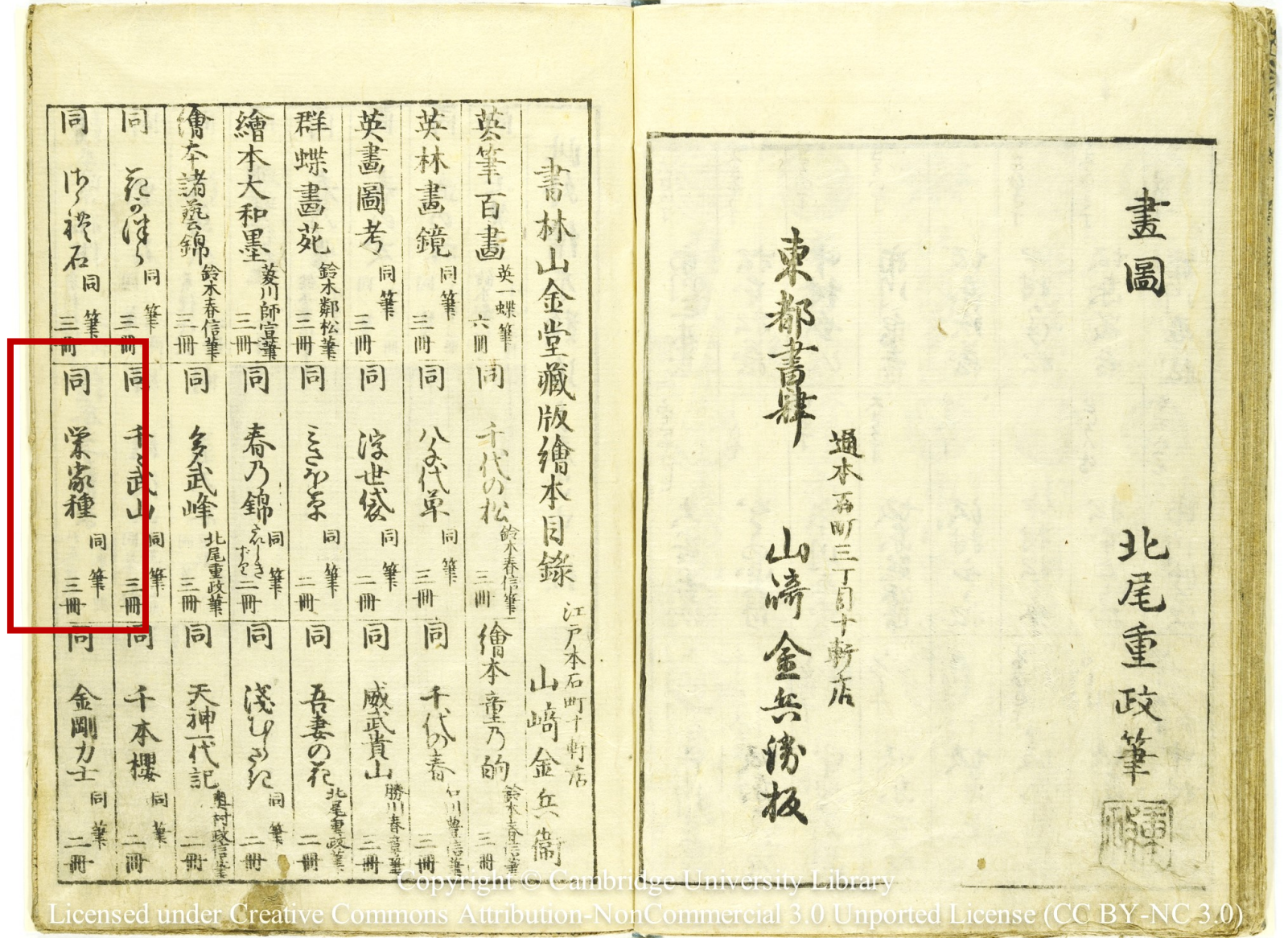


書畫
彫工
北尾重政筆
西友齋印
中村良久
明和八年 辛卯正月吉日
中村小老傍新
中村忠治梓

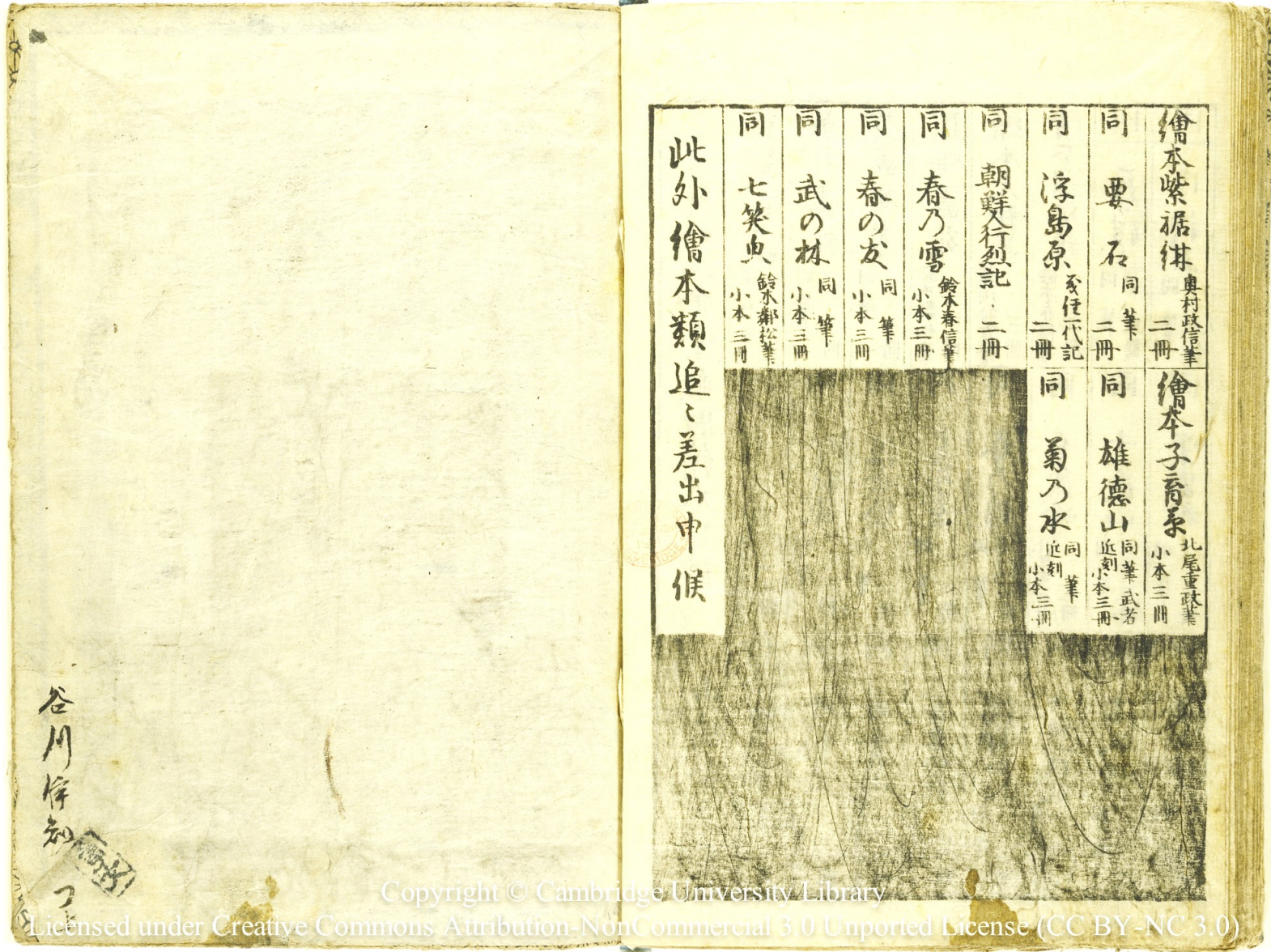
画図 北尾重政筆「重政」

東都書肆

通本石町三丁目 十軒店
山崎金兵衛 板



Copyright © Cambridge University Library
Licensed under Creative Commons Attribution-NonCommercial 3.0 Unported License (CC BY-NC 3.0)



同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	繪本紫裾餅
七笑虫	武の林	春の友	春乃雪	朝鮮行烈記	淳島原	要石	要石	淳島原	朝鮮行烈記	繪本子音系
鈴木鄰松筆 小本三冊	同筆 小本三冊	同筆 小本三冊	鈴木春信筆 小本三冊	二冊	系任代記 二冊	同筆 二冊	同筆 二冊	同筆 二冊	同筆 二冊	北尾重政筆 小本三冊

此外繪本類追と差出申候

谷川梓知



<https://dl.ndl.go.jp/pid/2533275>

絵本三家栄種 3巻

北尾重政画。歌舞伎風俗絵本。半紙本3巻合1冊。
明和8年（1771）正月、江戸芝切通・中村小兵衛、中村忠治刊。

戯場風俗／絵本栄家種

吉田暎二 編

出版地 東京

出版社 歌舞伎出版部

出版年月日等 昭和2

大きさ、容量等 3冊；23cm

注記 複製



【国立国会図書館本解題】

絵本三家栄種三巻

北尾重政画。歌舞伎風俗絵本。半紙本三巻合一冊。明和八年（一七七七）正月、江戸芝切通・中村小兵衛、中村忠治刊。

墨摺り筆彩。蔵書印「談洲楼燕枝」他。現状は上下二巻本のような外観を呈するが、丁付によれば、下冊は中・下巻の合綴であると判断される。

莫逆新泉陳人の序に「武江は霜月時を違へず、旭に向ふ三番叟絶すとふたりの大入、其繁昌を北尾氏の画に写し、三家栄種と題し」云々とある通り、江戸の歌舞伎の繁栄ぶりを描いたもの。

上巻は、題名の「三家」に当たる中村座、市村座、森田座の起源を中心に扱い、中巻は顔見世の様子を花道、鶉棧敷、下座、切落客、棧敷客、仕切り場など、下巻は見物の貴賤、三階（楽屋）、役者、乗り込み、表がかりなどで、随所に油、煎餅、そば切りの見世の店頭図を挿入する。

原題簽の角書きに「劇場風俗」とあるように、当時の歌舞伎を取り巻く風俗、実態を様々な角度から照射する。同趣の題材を扱った絵本、絵入り本に勝川春章の安永九年（一七八〇）刊『役者夏の富士』、歌川豊国の享和元年（一八〇一）刊『俳優画図三階興』などがあるが、それらの魁ともいふべきもの。伝本極稀。（鈴木淳）

〈参考文献〉『「江戸後期歌舞伎資料展」目録』一九八一年一〇月、国立国会図書館。





それではこのセッションを終わりにします